イグナチオの霊操 第14回 9月17日 (金)

テーマ 「この世の罪」 UAPsに反するもの 柴田神父

1. イグナチオの罪から赦される体験 (3つの文献 祈りのヒントにしてください)

1) Sin is a lack of gratitude 罪は感謝の不足

“What is Ignatian spirituality?” 『イグナチオの霊性とは?』より (柴田神父の私訳)

David L. Fleming, SJ著 Loyola Press A Jesuit ministry出版 2008年発行

自叙伝の中で、回心したイグナチオは、これまでの生き方を振り返り、良心の呵責に苛まれたと書いています。几帳面に告解を繰り返し、あがきました。でも、結局は神の憐れみにすぎるしかないことを悟ります。神の尽きない恵みの豊かさを実感し、”罪”とは神への忘恩だと悟ります。

何かがうまくいかなくなると、取り乱して神に背を向けてしまう。この乱れが”罪”を助長します。キリストがこの世に来られたのは、この”罪の世界”を癒すためです。

イグナチオは”罪”と真剣に向き合ったし、私たちにもそれを望んでいます。”地獄の黙想”(# 65~72) さえるように指導しました。しかし、それは神の恵みの力強さを再認識するためです。彼は”罪”を神の愛のコンテキスト (文脈) でみていました。”罪”は感謝の不足 (忘恩) です。神が私たちになさったことへの無理解が”罪”です。

霊操の第1週は“罪からの清め”“生活の見直し”が大きなテーマです。“罪”は神への感謝の反対、神に対する“忘恩”です。逆に、神への“恩返し”で魂が救われます。

2) 『靈操』より 聖イグナチオ・デ・ロヨラ著 ホセ・ミゲル・バラ訳 新世社 1986年

#63番 罪と無秩序

「聖母との対話である。自分の御子であり主である方から次の3つのことのために恵みを取りなしてくださるよう、聖母にお願いをする。」

第1、私が自分の罪を内的に悟り、忌み嫌うように。

第2、自分の行動の無秩序を悟るように。それを願うのは、(行動の)無秩序を忌み嫌い、改善し、自分を整えるためである。

第3、世俗について知ることを願う。それは、世俗を忌み嫌い、世俗的なもの、空しいものを遠ざけるためである。

3) 『ある巡礼者の物語』より

イグナチオ・デ・ロヨラ自叙伝 門脇佳吉訳・注解 岩波文庫 2000年

第1章 ロヨラでの劇的な回心体験

注解：14

イグナチオは、「ただ考える」人ではなく「行為する」人物だった。

注解：20

過去の生活を真面目に反省し、自分の罪深さを知り、償いの苦行をする必要を痛感し、苦行の実行を決心する。

第2章「世俗の騎士」から「キリストの騎士」への変貌

14

「彼は、自分の罪の償いよりは、むしろ、神に気にいること、喜んでいただけることを目指して、偉大な苦行をなそうと固く決心した。

第3章 マンレサでの浄化から神秘体験へ

注解：13

彼が疑悩（悪の誘惑なのか、そうでないのかわからないこと）と戦う方法は、第1に告解すること、第2に霊的な人物を探すこと、第3に神学博士である霊的人物を発見し、告解することであった。しかし、これらの方法によっても疑悩を癒してはくれなかった。

注解：16（表現を変えています）

彼は、疑悩から脱出するために、もう1つの方法を実行した。長い祈りと苦行を自分に課したが、それは自分の意志と努力によって解放されようとするものだった。しかし、本当の罪からの浄化は自分の努力では成し遂げられないのである。神からの無償の恵みによって与えられるものである。彼は、自分の無力を悟り、無償のゆるしを 深い感謝で受けることを学ばねばならない。

注解：22

疑悩からの完全な解放は全く予想外の出来事として、神から無償で与えられる。それは夢から醒めるような一種の「目覚め」として、神から与えられた。・・・「目覚め」として発見した世界は、過去の罪は 神の慈しみによって、すでに赦されている現実、自由で光に満ちた現実である。

霊操 #53

罪を黙想した後、イグナチオはイエスの十字架を自分の罪と照らし合わせて眺めさせ、3つの質問を私たちに投げかけます。

「キリストのために私は何をして来たのか？」

「キリストのために私はこれから何をしようとしているのか？」

「キリストのために私は何をすべきなのか？」

イグナチオは深い回心の体験から行動（苦行・巡礼）に結びつけました。

私の罪の状態（忘恩の状態）

遅くイエズス会に入会したので大したことができない、能力の高い人には叶わない、自分は無力、つつがない司祭の人生を送ればいい、評価されることだけしていただきたい

神への恩返し

自分の経験を生かしたらいい、高い能力はなくてもできることを積み重ねたらいい、ありったけの想いをぶつけたらいい、人があまり注目してなくても大切と思うことを続けたらいい →神様は隠れたところを見ていてくださる（慰め）

振り返りの質問 罪についてのイグナチオの文献から響いた箇所を黙想してください

2. UAPsの側面から

UAPs (Universal Apostolic Preferences : イエズス会使徒職全体の方向付け 4つの優先事項) 2019~2029年

イエズス会の望みは、神へのより大いなる奉仕です。普遍的な善を求めながら、イエスからのミッションに協働する方法を探します。今の時代に、教会に、社会により必要のあることを探し、エネルギーを注ぐことで最善の貢献方法を探します。

- 1 「**霊操**」 「**霊操**および識別を通して神への道を示すこと 1年かけて配信
- 2 「**排除される人とともに**」 和解と正義のミッションにおいて、貧しい人々、世界から排除された人々、人間としての尊厳が侵害された人々と共に歩むこと 7/9配信
- 3 「**若者ととともに**」 希望に満ちた未来の創造において若い人々とともに歩むこと 7/16配信
- 4 「**自然とともに**」 「**とともに暮らす家**」 (地球) への配慮と世話を協働して行う 7/23配信

UAPsへの2ヶ月の取り組み (ここからはスライドで紹介)

「自然とともに」

2011年から東日本大震災の被災地ボランティアに長期の休みに出かけていた。

大槌ベースが閉じた後、2018年からはカリタス南相馬にお世話になる。

2020年からコロナの影響で行けなくなったが、汗をかいてボランティアしたことを体が覚えている。

現状は？

カトリック新聞2021年9月5日号 カリタス南相馬がコロナ禍対応で緊急支援を呼び掛けています。ぜひ、ご協力ください。

2013年9月 東京オリンピック招致に向けたスピーチで、安倍首相は国際オリンピック委員会（IOC）総会で福島第1原発の状況は「アンダーコントロール（制御下にある）」と発言しました。

2021年8月25日 東京電力は福島第1原発の処理水を沖合1キロに海洋放出する方針を発表しています。漁業関係者（福島県魚連）は風評被害を心配し、海洋放出に反対している→原発事故は終わっていません。

「排除される人と共に」と「若者と共に」

4月山口から連れてきた100匹のカブトムシの幼虫は、7月に羽化して37つがいになりました。教会学校のお友達に。

300匹を超える幼虫になって戻ってきた。次は12世代目。来年の6月までお世話が必要。土替えを一人ですると3～4時間かかり大変です。コロナが開けたらお手伝いをお願いします。

教会学校の夏のイベントがなくなり、自由研究のお手伝いになれば・・・。カマキリ神父さん

動画の紹介（15分） <https://www.youtube.com/watch?v=Z4ubiom4ABE&t=762s>

カブトムシを通して、命の大切さを学ぶ（詳しくは動画を QRコード）

10月10日の教会祭では、自由研究を紹介。楽しみにしててください。

教会学校のお友だち、山口の卒園児さんから暑中お見舞いをもらった。

カブトムシ募金は難民支援に。20万円を送金しました。（アフリカから来た人たちに冬の寒さはこたえます。越冬支援をお願いします。）

カブトムシを夏の自由研究にした教会学校のお友達も。10月10日（日）の教会祭で紹介。

「命を守るために」 UAPsの4つの優先事項（Preferences）には入っていませんが・・・

強い体験が行動に向かわせる

佐藤敏郎さんのお話 2019年3月 山口県光市での講演

石巻市の大川小学校（児童74名が犠牲）で小6の娘さんを亡くされた佐藤敏郎（中学の元国語の先生）さんの体験

「念のため」

教育はどのような「未来」を作るか？ 東日本大震災は辛いだけの過去ではない。「未来」のための「過去」。

南海トラフ地震の予測。とんでもない地震が来る・・・

30数万人が亡くなる予測。私たちが教員はどのような「未来」を作るか？

津波・地震が来る「未来」は変えられない。でも30数万人が亡くなるという「未来」は変えられる。どうやって？ 今、考えて、行動していくことで変えられる。

宮城県の反省は「巨大地震と津波が来るよ」と聞いていたのに、「行動したくなかった」
家が流される、悲しむ人がいっぱい出てくる・・・そういう「未来」を想像したくなかった。
だから「大丈夫じゃないか?」「大したことないんじゃないか?」と油断した、大丈夫と言い聞か
せた。

違いますよね。私たちが想像しなければならない「未来」はものすごい津波が来ることを想像し
て、みんなが「念のため」に避難して丘の上で再会して「良かったね」と抱き合う「未来」を想
像すること。みんなが亡くなって悲しむのを想像することじゃない。その「未来」を作るのは「教
育」。脅しではなく、ハッピーエンドの「教育」そのためには現実を知って、「念のため」を深め
ていく。

(涙を抑えながら、みずほちゃんに、お父さんは伝えたよという気持ちを込めて) 私たちの体験
を使ってください。

イグナチオの生き方から

注解：14

イグナチオは、「ただ考える」人ではなく「行為する」人物だった。

イグナチオは、“罪”を頭で理解するのではなく、“心”で感じることを大事にした。→情動が大事

7～9月 この2ヶ月の防災への取り組み

① 非常用ポータブル電源 (2021/9) 携帯約90回 充電5時間 ソーラーパネルは9.5時間

←非常用リュック(2019/9)

9月1日は防災の日

②東京都防災アプリ

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/1005744/index.html>

防災アプリをダウンロードしたらいつでも必要なことをチェックできる。

③四ツ谷駅周辺地区 帰宅困難者対策地域協力会 (大きなテーマ)

<http://www.yotsuya-chiikikyoryoku.net>

“罪”と“防災”に一見つながりはないような? 「神様への恩返し」の1つ

防災:自分が助かり、人も助けられる。コロナで活動が制限される時間を防災のために使われ

たらいかがででしょうか?

神様は、私たち一人ひとりに体験を与え、神様を喜ばせ、人の役に立つ行動に向かうように促しています。私にとってそれは何か? 見つけてエネルギーを注いでいきましょう。

振り返りの質問

Q. 神様からどれだけのものを頂いているでしょうか？ それらに気づいているでしょうか？

無駄にしていないでしょうか？ 世俗的なものに流されて無駄にしていないでしょうか？

Q.イグナチオは生涯を「神様への恩返し」のために生きました。あなたはどのような恩返しをしているでしょうか？

すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り

宇宙万物の造り主である神よ、
あなたはお造りになったすべてのもの
ご自分の優しさで包んでくださいます。

わたしたちが傷つけてしまった地球と、
この世界で見捨てられ、忘れ去られた人々の叫びに
気づくことができるよう、
1人ひとりの心を照らしてください。

無関心を遠ざけ、
貧しい人や弱い人を支え、
ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、
わたしたちの役割を示してください。

すべてのいのちを守るため、
よりよい未来をひらくために、
聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、
あなたの愛の道具として遣わしてください。

すべての被造物とともに
あなたを賛美することができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

(2020年5月8日 日本カトリック司教協議会認可)

参考文献

“What is Ignatian spirituality?” 『イグナチオの霊性とは?』より (柴田神父の私訳)

David L. Fleming, SJ著 Loyola Press A Jesuit ministry出版 2008年発行

『靈操』 聖イグナチオ・デ・ロヨラ著 ホセ・ミゲル・バラ訳 新世社 1986年

『ある巡礼者の物語』より イグナチオ・デ・ロヨラ自叙伝 門脇佳吉訳・注解 岩波文庫

2000年